

THE LONG TIME BEST SELLER

世界のロングセラー

時間に耐え 風雪をしのぎ ホンモノを追求しつづけた人びとの志が 今私たちに 無量のことを教えてくれる

保存版

第268号 **ペローニのコインケース** Coin case by Peroni
持ち物のブランドを誇示するような従軍は所詮三流だ。



革にしっとりなじむ彫刻のやわらかな造型に反して、作りは頑固かつ美に使いやすい。伝統工芸の技法を機能に集約した逸品だ。

ペローニのコインケース

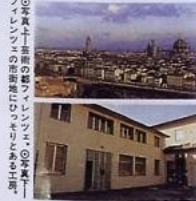
世界のロングセラー in persévérance virtues 継続は力なり

これだけブランド、ブランドと騒がれている時世だが、これを際してもブランド名のないコインケースがある。長年の愛用とともに洪いブティックカラーになって、その温もりが何ともいえない。



ファイレンツェに五百年続く技

大 字の受難勉強が長い昔の思ひ出たり、せつせつと詰め込んだはずの知識はいつの間にか風化し、世界史で学んだルネサンスの感動もいまはとへやうら……という人が少なくないだろう。



①真十三年の聖職のファイレンツェの街並み、フレンツェの街並み。

台座の上に木型を置き、そこに革をかぶせ、やつと似た工具でまわりから強く引っぱり、型に密着させながら極細の釘を何本も打つて止め、そのまま形が固まるまで八時間乾燥させる。

「職人たちの技」PART 4



釘止めた周囲の余計な革は切り取り、なめらかなふらふらみを持つ曲面は、入念な熱コテの手仕事で作ります。底部と蓋を接着するのち、中に金型を入れ、上から槌で入念に叩いて圧着させ、さながら全体が一枚革であるかのように仕上げる。アニリンで色付けし、根気よく磨いたあとは、どう見ても一枚革そのものである。最後に金型による裝飾を施せば完成である。金型を革に圧着させる技法はメデイチ家の特別注文に応えて生まれ、五百年間ファイレンツェの革工芸技術を象徴するものとして受け継がれてきたものだ。こうして生まれ、厳密にいうと「コインケース」は、厳密にいうと「一つの形が微妙に違う。楕円の加減で

もともと日本人にとっては、イタリアのファイレンツェに始まったルネサンスも、三代にわたってそれを支えた大パトロンメデイチ家も、所詮は遠くなる異国の話。五百年前の歴史が日常と無縁になつていくのは当たり前のことだ。これがファイレンツェへ行つてみると話は一変し、ルネサンスもメデイチ家もつい昨日のことのように街中の至る所に生きている。市街の中心にある白・緑・赤の大理石が美しいドゥオモ・シニョリア広場の雄大なベッキオ宮。金銀や革細工の店が軒をつらねるベッキオ橋。どれもこれも五百年前からそのままだ。

こういふ街だからペローニ兄弟のような時代遅れした、とわかれには見える職人が、いまでも黙々と五百年前のままの手仕事を続けているのだ。靴職人だった父を持つペローニ



②500年前とまったく変わらない仕事続けるペローニ兄弟と弟の息子二人、右端が店主・ペローニ。

兄弟は、兄ピエロが十五歳のとき、革製品の金装飾の見習い小僧となり、一歳下の弟ロベルトもすぐ兄工房に移って修業を積み、共同でペローニ兄弟工房を興したのは一九五六年。あれから四十余年、ピエロは六十三、ロベルトは六十一になった

が、相変わらず下町のカンポマルテの小さな工房で、ロベルトの二人の息子と一緒に仕事をしている。工房二階の事務室にある陳列棚には多種多様な革小物が無造作に並べられている。住所録、メモパッド、写真立て、ペンケース、蔵書の革装幀、アクセサリー入れ、そしてコインケース……。歴史的工芸品の復元と仕事は同じ

な。じみ深いこれらの革小物を製作するかわら、ペローニ兄弟工房は「ムセオ・ムセオ」と呼ばれる古美術品復元を目的とする職人共同体の一員として、ファイレンツェの歴史的美術品を修復する仕事にも携わっている。豪華な革細工の宝飾箱や、宝飾品をりばめ金装飾を施したアルバムなど、兄弟の手によって復元されたルネサンス工芸の精華は、そのアイテム四百五十余に達する。一見、変習もないシンパルな革

③型抜きしたあと、重なり合う接合部分は小刀で削いで削いで薄くする。

④縫製の釘で仮止めて置いたのち、40-50°Cで時間を乾燥させる。

⑤曲線部分を削ぎ、すべての仕上げは熱コテで成型する。

⑥乾燥の間、潤滑を高く保持するために入れておいた金型を抜き取る。

⑦エッジ部分を細塗り用の刷毛で保護剤を入念に塗る。楕円の作業者が、

形を決めていくから、完全に同じものは作れない。この名品にブランド名がない。その理由を尋ねると、ペローニはびつくりしたように反問した。「なんで、そんなもんがあるんだ？」

製コインケースも、この兄弟にたつては、メデイチ家御用達の美術工芸品を復元する仕事と何ら変わりはない。彼らの頭の中には時間も時間も、工程を機械化し、能率を高めて、一つでも余計に作って稼ごうという気がさらさらしない。だから、たかがコインケース一個といえどもすべて手作りで、一個作り上げるのに三時間かかろうが五時間かかろうがまるで気にしない。コインケースの革は仕後「二、二年の若い雄牛の皮を素材に、ファイレンツェ郊外のサンタクロッチェで鞣したものを使う。サンタクロッチェという地名が「世界最高の鞣し技術」と同義語であるのはよく承知の通りだ。革を一度濡らして八時間乾燥させたのち、再びしっかりと硬くなったところで乾燥し、フオンド（底）と呼ばれるコイン収納部分と、パツティナ（蓋）を作る。フオンドもパツティナも、木の

ファイレンツェ @ Firenze
イタリア・トスカーナ地方の中心都市。アノ川の両岸に発達。中世以来イタリアの学問・文化・美術の都として知られる。15世紀にはメデイチ家の支配下に全イタリアの経済・文化の中心となる。有名な建築物・美術品が多く、市全体がルネサンス文化の文庫。人口約43万9000。英語名ではフィレンツェ。

メデイチ家 @ Medici
ファイレンツェの大金融業者。商業・金融で14世紀に台頭。15世紀に全盛。ルネサンス前期には三代にわたって市政を執掌する一方で、ローマ教皇・フランス王紀各2名を輩出。絶大な富と権力のもとに学者を招き、学院を建てるとな文芸を保護奨励した。しかし15世紀末からイタリア諸都市の衰微とともに衰えた。

飛石のたへ、飛行に左右されずに高いあいだで飛翔し、記録あるすべての国内外の飛行機を、なるべく具体的に解説してご提供いたします。採用の力にはお礼を申し上げます。